4 人と動物との共通感染症

人と動物との共通感染症とは、動物から人へ、人から動物へお互いに感染する病気のことです。世界では200種類以上が確認されていて、そのうち数十種類程度が日本国内でも発生しています。

長く人と共に暮らしてきたペットである犬やねこなどの場合は、病気の種類や治療法も分かっているものが多く、過度に恐れることはありません。一般的な衛生対策を守れば、ほとんどの病気は予防できます。

一般的な衛生対策

- 口移しや同じ食器で食べ物を与えない。
- キスなど過剰な接触をしない。
- ペットに触った後と、飲食の前には手を洗う。
- 排泄物はすぐに片付け、処理の後は石鹸で手を洗う。
- ペットの健康と衛生的な飼養環境を保つ。

人と暮らした歴史が浅い動物や野生動物は、まだ治療法が確立していない病気や未知の病原体を持つ可能性もあります。特に、乳幼児、高齢者など、家族に抵抗力の弱い人がいる場合は、珍しい動物や野生動物の飼養には慎重な判断が必要です。

また、カメなどの爬虫類は食中毒の原因となるサルモネラ菌をもっていることがあるので、乳幼児のいる家庭や幼稚園などで飼うには不向きです。一般家庭でも、水槽を調理場所の近くに置かない、カメや水に触った手で食品に触れない、触った後には石鹸で手を洗うなどの注意が必要です。

自分の飼おうとする動物に、どんな人と動物との共通感染症があるか調べて、適切な予防策を講じましょう。

狂犬病は人と動物との共通感染症の中でも治療法がなく、発症すると100%死亡する危険な病気なので、犬への毎年のワクチン接種が飼い主に義務付けられています。